



▲カナダでの1カ月の短期留学を終え、一回り大きくなったように見える生徒たち

国際社会で役立つ人間目指して! 9/4

うるま市海外短期留学派遣事業の帰国報告会が市勝連シビックセンターで行われました。

同事業は市内の中学校に通う生徒たちに海外体験をさせ、国際性豊かで将来郷土に尽くす人材を育成しようというもの。

中学生15人が7月25日から約1カ月間カナダへ体験留学をしました。報告会では、カナダの大自然のすばらしさや日本との文化の違いに驚いたこと、現地ホストファミリーとの楽しかった思い出、体験を通して自分がどんな風に変化したかなどをまとめ発表しました。

報告を聞いた前門幸雄教育長は「百聞は一見にしかず。この経験は皆さんの大きな自信になる」と話しました。

保育士の仕事を体験 7/23



▲体中に絵の具を塗られたながらも子どもたちと遊ぶ施設体験の生徒

施設体験学習をとおして、市内の園児、高齢者、障害者を対象とした各施設の役割や、仕事の内容を理解してもらおうと「中・高校生施設体験学習」（主催：市社会福祉協議会、市ボランティアセンター）が行われました。

市内のたいら保育園で体験学習を行った関根大地さん（石川高3年）は「あやすのに苦労しましたが、子どもたちと楽しく触れ合うこともでき、良い経験になりました」と感想を語ってくれました。

生の英語を体験! サマーイングリッシュ 8/14



▲生の英語を学びながらアメリカ文化を体験しようとする多くの高校生が参加

高校生を対象に、異文化交流を通して英語に親しんでもらおうと8月14日から19日までキャンプコートニーでサマーイングリッシュクラスが開かれました。午前中は英語の授業で、外国人ボランティアを交えてのグループ討議。生徒たちは日頃話している会話の英訳や実践的な会話を楽しみました。午後は基地内のフードコートやPX、基地の放送局（AFN）等の見学をしました。

修了式には同基地司令官からの修了証書の授与も行われ、生徒たちは感激していました。

九州からやってきました! 8/21



▲知念恒男市長を訪れた熊本県宇土市の子もたちと受け入れ家族

与勝・具志川と熊本県宇土市ライオンズクラブの交換学生派遣事業で、8月18日から3泊4日の日程で、本市へやって来た子どもたち5人が、受け入れ先の家族とともに、市役所を訪れ、知念恒男市長を表敬訪問しました。同事業は両地域の青少年に交流を通して個性豊かな人間に成長してもらうのが目的。

夏は宇土市から冬は本市から交互に派遣。滞在中、子どもたちは同市について学習し、受け入れ家族とキャンプコートニーでビーチパーティーやエイサーまつり、肝高の阿麻和利公演などを楽しみました。

体験学習プログラムを考える 8/29



▲「買い物ゲーム」を体験する教員や保育士たち

子どもたちが楽しみながら学ぶための効果的な体験プログラムを知ってもらおうと、市内の教員や保育士らを対象にした講座が、市社会福祉協議会で開かれました。子どもたちが自発的に学べる「体験学習」の企画の立て方や心得などをテーマに行われました。

沖縄リサイクル運動市民の会の協力により、参加者らは実際に環境をテーマにした体験プログラム「買い物ゲーム」に参加し、子どもたちの自主性を育むポイントなどについて学びました。